

■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① この笛、われえ吹かず。
- ② なな泣きそ、夜の明けぬさきに帰り来む。
- ③ よもこれしきの雨に道は閉ざさじ。
- ④ つゆそのことを知らずして、過ぎしてけり。
- ⑤ 我、えこそ参らね、心ばかりは添へ侍る。
- ⑥ さらに言ふべきこともなしと、うちうなづく。
- ⑦ いさ、その人の心は知らず。
- ⑧ あに命を惜しまむや、君のためならば。
- ⑨ たえて音づれもせず、月日のみ過ぎゆく。
- ⑩ なんぞかくは嘆くや、われに語れかし。
- ⑪ たとひ身は滅ぶとも、名は朽ちじ。
- ⑫ 願はくはこの花の散らざらむことを。
- ⑬ をさをさそのやうなる人は世にあらず。
- ⑭ つやつや覚えたることなし、夢のごとし。
- ⑮ もし雨降らば、出で立つことかなはじ。
- ⑯ さながら昔の都の姿にて、変はることなし。

■ 設問 (全22問)

1. 傍線①「え吹かず」について、副詞「え」と呼応している語を本文中から抜き出せ。また「え吹かず」を現代語訳せよ。
 呼応する語
 現代語訳
2. 傍線⑩「さながら」の意味として最も適当なものを選べ。
 ア まるで (～のようだ) イ そのまま・すべて ウ いまにも
3. 傍線②「ななきそ」について、副詞「な」と呼応している語を抜き出し、この「な～そ」の表す意味を答えよ。
 呼応する語
 意味
4. 傍線③「よも～じ」について、「よも」と呼応している語を抜き出し、全体の意味を答えよ。
 呼応する語
 意味
5. 傍線④「つゆ～ず」の「つゆ」は、下に何を伴って、どのような意味を表すか答えよ。
6. 傍線⑤「え～ね」の「ね」は、どの語が活用したものか。文法的に説明せよ (基本形と活用形)。

7. 傍線⑥「さらに～なし」の「さらに」の意味として最も適切なものを次から選べ。
ア さらにいっそう イ 少しも（～ない） ウ 改めてもう一度
8. 傍線⑦「いさ～知らず」の「いさ」の意味として最も適切なものを次から選べ。
ア さあ（どうだろうか） イ いいえ違う ウ ぜひとも
9. 傍線⑧「あに～や」は、ある表現技法を用いている。その技法名を漢字二字で答えよ。
10. 傍線⑨「たえて～ず」の「たえて」を現代語訳せよ。
11. 傍線⑩「なんぞ～や」の「なんぞ」の意味として最も適切なものを次から選べ。
ア どうして（～か） イ なんとなく ウ いつのまにか
12. 傍線⑪「たとひ～とも」は、どのような意味の構文か。最も適切なものを選べ。
ア 仮定（たとえ～ても） イ 願望（～たい） ウ 禁止（～するな）
13. 傍線⑫「願はくは～」の「願はくは」は、下にどのような気持ちを表す言い方を伴うか、一語で答えよ。
14. 傍線⑬「をさをさ～ず」の「をさをさ」の意味として最も適切なものを選べ。
ア たいへん多く イ ほとんど（～ない） ウ ときどき
15. 傍線⑭「つやつや～ことなし」の「つやつや」と同じ意味・用法を持つ副詞を、次の中からすべて選べ。
ア つゆ イ よも ウ さらに エ あに
16. 傍線⑮「もし～ば」の構文が表す意味を答えよ。
17. 次の空欄に入る呼応の副詞を、後の語群から選んで入れよ。
「（ ）泣きそ」＝泣いてくれるな。
語群：な／え／よも／つゆ
18. 次の空欄に入る呼応の副詞を、後の語群から選んで入れよ。
「（ ）行かじ」＝まさか行くまい。
語群：な／え／よも／さらに
19. 次の空欄に入る呼応の副詞を、後の語群から選んで入れよ。
「（ ）参らず」＝（とても）参ることができない。
語群：え／な／いさ／あに
20. 次の各文の傍線部を現代語訳せよ。
つゆ知らず
をさをさあらず
21. 「な～そ」と「～な（終助詞）」は、いずれも禁止を表すが、語の位置のうえでどのように違うか。「な～そ」の形のしくみがわかるように、簡潔に説明せよ。（記述）
22. 「呼応の副詞」とは何か。「え～打消」を例に挙げながら、その特徴を一文で説明せよ。（記述）